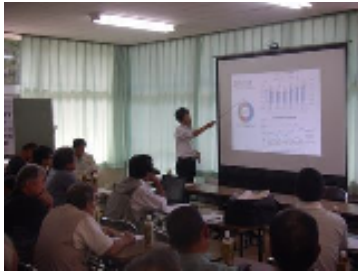


普及活動情勢報告（平成26年10月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

ユズ生産の経営改善を目指して 土佐山柚子生産組合中央研修会



9月25日、高知市農協土佐山支所で、土佐山柚子生産組合中央研修会が開催されました(出席者30名)。果樹専門技術員から県内外の産地情勢の報告があった後、普及所から主要な病害虫の形態、防除対策、IPMを活用した栽培体系について説明しました。

カラー画像のスライドを用いることで、今年度の台風により多発傾向にある疫病（すそ腐病）を含め、防除に対するイメージづくりを行いました。質疑では採算を考慮した防除について質問が出るなど、経営改善による産地振興に向けた意欲の高まりを感じました。

今後も普及所では、経営改善につながるように、良品多収に向けた取り組みを進めていきます。

天敵を利用して害虫防除！JA高知春野キュウリ部会が現地検討会を開催



天敵定着状況の確認と検討

JA高知春野キュウリ部会は10月9日に天敵利用現地検討会を開催し、今年から天敵利用に取り組む部員を中心に13名が天敵の利用について学習しました。

普及所は、タバコカスミカメや微生物農薬、殺菌剤のローテーション散布による病害予防を説明しました。

キュウリでは、黄化えそ病の発生など天敵利用には課題もありますが、参加農家からは天敵の確認方法や微生物農薬への殺菌剤の影響など活発な質問が出ました。

普及所では、今後もキュウリの生産安定やコスト低減のための支援をしていきます。

クレームにはとにかく真摯に対応を！ 直販所のクレーム対応研修会（第2回）



鏡村直販店組合では、クレーム対応のマニュアル化を課題とし、高知県産業振興アドバイザー制度を利用して、10月17日に第2回クレーム対応研修会を開催しました。今回は店舗職員と理事の計13名を対象に、具体的な場面を職員が実演し、その実演に対して皆で意見を出し合いながら対応の内容について研修しました。

普及所は研修会開催までに、研修の方法や取り上げる具体的な想定事例について、講師と事前に打合せを行ないました。

参加者からは「もっと色々な事例について、たくさんアドバイスがもらいたくなる内容であった」と大変好評でした。

今後は、事例ごとに対応する際のポイントを職員と一緒にまとめるよう、マニュアル作成を支援していきます。

新たな有望品目の産地づくりに向けて！スナップエンドウの栽培技術確立



現地巡回による指導

高知市長浜地区では、重油高騰に伴い無加温で栽培できる品目を作りたいという生産者の要望を受け、新たな品目の推進に取り組んでいます。

普及所が市場調査した結果、市場からの要望もあり、単価もよく、これから伸びてくる品目であると推測されたスナップエンドウの栽培を生産者に勧めたところ、昨年2戸で始まった栽培が今年は3戸に増えました。普及所は、JAや生産者と一緒に作型に合った品種の導入を協議した結果、今年は「ホルン」という品種を栽培することになりました。さらにJAとともに栽培指針を作成し、10月21日には現地巡回も行いました。

普及所では、引き続き関係機関と連携しながら、栽培管理を指導し産地化を支援していきます。